

町田市立図書館メールマガジン（2026年3月15日号）

みなさまこんにちは、町田市立図書館です。  
メールマガジンを配信します。

---

図書館職員おすすめ本

---

『ページズ書店の仲間たち 1 ティリー・ページズと魔法の図書館』  
J923-ジ/アナ・ジェームス/文響社/2023年

11歳のティリーは、ロンドンのページズ書店で祖父母といっしょに暮らしている。本が大好きで毎日本に囲まれて過ごすティリーの前に、ある日突然現れたのは、「赤毛のアン」??  
イギリス発ブックファンタジーの1巻目です。子ども向けのファンタジーですが、かつて本が好きな子どもだった大人、「本の中に入ってみたい」なんて考えたことのある大人も、きっと楽しめるはず！  
シリーズは全6作で、日本語翻訳版は3作目まで出版されています。読み始めるなら、今がチャンスです！  
(PN 今も昔も児童書好き)

『石の卵』  
J459/山田英春/福音館書店/2014年

「ドラゴンの卵」と呼ばれている鉱物について書かれた、写真たっぷりの解説本。外見は何の変哲もない丸い石だが、割ってみると『ハッ』と息を飲む宝石のような美しい模様が現れる。この卵は、はたしてドラゴンの卵なのか??  
子ども向けの本だが、セプタリア（亀甲石）とサンダーエッグを詳しく紹介した本邦初の本。石の中は数千万年の、時を経てできた水晶。その断面が食べ物？悪魔？動物？と思わせる模様で想像力がかきたてられるとともに、地球の自然の素晴らしさや不思議も学べる。この本を読むと、道端の石にもふと目がとまり、想像がふくらむ。いつかドラゴンの石を探しに行きたくなる、そんな本。福音館書店の月刊誌「たくさんのふしぎ」からの傑作集。

『最後の冒険家』  
289.1-カ/石川直樹/集英社/2011年

2008年、気球で太平洋横断に挑み、気球とともに行方不明となった神田道夫。その最初の太平洋横断に同行した石川直樹が、神田の気球による冒険と、その背中を追うように綴ったドキュメンタリーが本書だ。  
この世界には、もはや新たな空白は残されていない。未踏の地はどこにもない。そんな時代において、冒険とは何なのか。冒険家とはどのような人間を言うのか。本書は、その問いを静かに、しかし執拗に読者へ突きつけてくる。読み進めるほどに、答えは明確になるどころか、むしろ揺らいでいく。その揺らぎこそが神田道夫という存在の輪郭なのだと思わされた。読み終えたあと、題名の「最後の冒険家」という言葉が、切実に胸に残った。  
(PN でこもち)

=====  
町田市立図書館  
ホームページ：<https://www.library-machida.tokyo.jp/>  
X：[https://x.com/machida\\_library](https://x.com/machida_library)

◆メールマガジンのバックナンバーは、町田市立図書館ホームページからご覧いただけます。  
◆メールマガジンの配信停止、メールアドレスの変更等は、町田市立図書館のホームページからお手続きください。

=====  
2026年3月15日発行